

第49回和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラムのご案内

- 日時** : 2013年10月23日(水)午後6時15分開始。(2時間程の予定)
- 場所** : 和歌山市:和歌山大学 システム情報学センター 1F第2演習室
田辺市:和歌山県立情報交流センター(ビッグ・ユー) 研修室4
新宮市:みくまの支援学校 会議室
橋本市:きのかわ支援学校 第2プレイ
岸和田市:和歌山大学岸和田サテライト(岸和田市立浪切ホール)
- 講演** : 「知的障害・発達障害のある青年にとっての教育年限延長の意味と意義」
- 講師** : 和歌山大学教育学部 山崎由可里
きのかわ福祉会 小畑耕作氏
小林正尚氏

【講演の要旨】

学齢期は、長い人生の土台となるさまざまな能力を獲得し、自己を確立していく大切な時期です。近代学校教育制度を振り返ると、社会が複雑化するに従い義務教育の年限が延長し、今では後期中等教育も準義務教育化しています。加えて、大学や専門学校への進学率が70%を超えるまでになっています。しかし、支援学校高等部卒業後の進学者(盲学校・ろう学校を除く)は、職業訓練校を含めても1%程度でしかありません。そのような中、きのかわ支援学校は、「発達のあゆみがゆっくりな障害のある青年にこそ、じっくりと社会性を身につける学びの場が必要」という視点から、開校まもなくより、継続的に他県の専攻科へ卒業生を送り出してきました。それでは、専攻科での学びの時間は、どのような意味や意義をもつでしょうか。そして、専攻科へ進学した卒業生たちは、現在どのような生活を送っているでしょうか。

当日は、日本における教育年限延長の変遷および青年期教育の意味と意義について山崎が、きのかわ支援学校卒業後の専攻科進学者追跡調査について小林正尚氏が、全国的に注目されている「福祉型専攻科」自立訓練事業シャインでの取り組みや青年たちの心の育ちについて小畑耕作氏が報告いたします。

暴風警報・大雨警報発令時のフォーラム実施について

- ・開催当日16:00の時点で、講演者がいる会場(今回は和歌山市)に、暴風警報もしくは大雨警報が発令されている場合は、全ての会場でのフォーラムを中止とさせていただきます。
- ・開催当日16:00の時点で、暴風警報もしくは大雨警報が発令されている地域にある会場は、フォーラムの開催を中止といたします。ただし、会場によって状況が異なるため、16:00以前に中止が決定される場合もあります。その際は会場から連絡がありますのでご注意ください。

参加申込み : 不要。 当日、直接会場へお越し下さい。

問い合わせ先 : 和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラム事務局

ファックス : 073 - 457 - 7390

メールアドレス : info-seforum@center.wakayama-u.ac.jp